

九州・アジア/中国ビジネス研究会

第79回研究会開催案内

日時：平成25年8月26日(月) 18:30 — 20:30

場所：エルガーラ・オフィス棟 6階601-2号室 久留米大学福岡サテライト教室

福岡・中央区天神1-4-2 大丸エルガーラ東館 TEL : 092-737-3111

(エルガーラ・オフィス棟は天神・大丸エルガーラ東館と国体道路沿いで隣接するビルです)

講師：長崎大学名誉教授(中国福州大学客員教授) 井手 啓二 氏

略歴：1943年福岡県生。1970年京都大学大学院経済学研究科博士課程(経済政策専攻)修了。1970～1994年立命館大学経営学部・同大学院助教授・教授。1994年～2008年長崎大学経済学部・同大学院教授。2008年～現在、長崎大学名誉教授・中国福州大学客員教授。専攻は中欧・中国の経済・経営論。『中国社会主义と経済改革—歴史的位置』(1988年)、『現代企業の組織と管理』(1977年)、『転機に立つ社会主义』(1985年)、『アジア太平洋新時代と日本』(1992年)、『市場と計画』(1993年)、『東アジア経済と日本』(2000年)、『中国における国際化への課題』(2007年)など30余の共著書がある。また最近の論文には「現代中国資本主義論によせて」(2011年)、「中国の経済政策論議—2012年」(2012年)、「中国经济改革論—経済発展と制度改革」(2012年)などがある一方、「日中友好新聞」(日中友好協会)の「中国リーダー欄」の常任寄稿者として中国政治経済の動向を毎月紹介している。

テーマ：構造転換期にある中国政治・経済～習・李新政権はどこへ行く

概要：日本・中国を含めて現代を論ずることは容易ではない。議論が定まらず、大きく分岐しているためである。アベノミックスには評価と批判が相半ばしている。しかし実は、この構図は1990年代初めのバブル崩壊以降、基本的に変わらない。この20数年、日本の混迷が続いているためであり、21世紀に入り日・米・欧の長期停滞が明確になり、議論の混迷は度を増している感がある。日・米・欧の社会を停滞に導いたのは、①新自由主義的思考の広がり、②グローバル化の進行、③前二者から生じた政治的混迷、であろう。根は深く、脱却の展望は示されていない。現在期待を集めているのは、中国、インドなどアジア諸国、アフリカ諸国などの経済発展である。世界の中心は次第に新興国に移動しつつある。先進国がカジノ資本主義化の推進にうつつを抜かしている間に、新興国はキャッチアップの歩みを進めてきたように見える。中国はその代表的例であろう。中国の発展は改革・開放政策、市場経済化、社会生活における自由と民主主義の拡大によってもたらされた。一党制がなお堅持され、近代化・民主化には極めて大きな立ち遅れがあるが、自壊・自滅に導かれた旧ソ連・東欧とは異なる活発な政治・経済社会が生まれ、共同富裕化・近代化・民主化が進んでいる。懸念されるのは経済・政治大国化にともない軍事大国化することであろう。英米仏独日露は、過去2世紀の間にこの道を歩み、深い挫折を経験した。最後の帝国アメリカの没落は避けられない。第2の大国に躍り出た中国は、アメリカ・旧ソ連、あるいは西側先進国とは異なる道を歩めるのか？もしその可能性があるとするれば何故なのか？そして日本における中国(経済)誤解等、中国政治・経済の現在(構造転換期にある)についての私見を述べ、問題提起としてみたい。

会費：参加ご希望の方は以下に申込み、登録の上、当日会場入り口にて参加費1000円をお支払いください。

申込み先：(株)アジアソリューション・中山芳美 宛

電話：092-741-9338 E-mail：yoshimi@asol.ne.jp

九州・アジア/中国ビジネス研究会

主催：一般社団法人九州・アジアビジネス連携協議会

共催：近畿大学産業理工学部・アジアビジネス研究会